

2025 年若手の会 サイエンスアゴラ 2025

「触れて、見て、考える 海藻から考える食と環境の化学」実施報告

化学部会 若手の会

1. 概要

- 開催日時： 2024 年 10 月 25-26 日（土日） 9 時 30 分～17 時 30 分
- 開催場所： テレコムセンター（東京都江東区青海二丁目 5 番 10 号）

2. 当日参加スタッフ

- 化学部門・・・秋田さん、石川さん、小川さん、川本さん、小林さん、佐藤さん 武田さん、平島さん、吉川（報告者）
- 水産部門・・・岡野さん、高柳さん、田角さん、田角娘さん、

3. 費用

<収入> 本部からの補助(対外活動促進費)： ¥ 93,422

<支出> 材料費： ¥ 5,066

備品代： ¥ 880

印刷代： ¥ 940

機材レンタル代： ¥ 33,770

スタッフ交通費： ¥ 52,766

合計： ¥ 93,422

<収支> ¥ 0

3. 実施内容（当日までの準備）

・昨年度に引き続き今回は水産部門との合同企画となった。実施内容は昨年ベースであるが、同一テーマであると不採択の可能性が高い点、今年のサイエンスアゴラは例年以上に対話を重視したものになっている点をふまえ、食と化学を重点的におくことにした。

・企画タイトルは「触れて、見て、考える 海藻から考える食と環境の化学」とした。以下は採択書に記載した概要。

「水に触れる不思議体験」では海藻由来の成分を使った水の固形化体験を行います。「身近な海藻の化学」では食卓にのぼる海藻と生物化学的なしくみについて、本物の海藻をさわりながらクイズ形式でわかりやすく対話し、解き明かしていきます。参加者は体験や対話を通じて、私たちの食や環境に関わる化学の不思議・大切さを発見します。最後に気づきやこれから出来る行動を一緒に考えていきます。

- ・水産部門は、ポスター（クイズ形式）、海藻類展示、動画、化学部門はアルギン酸ナトリウムを使ってカラフルなビーズを作るという体験で進めることにした。
- ・合同打ち合わせは2回行った。参加の意義やそれぞれ出展する内容を報告しながら両方で共有することを行った。
- ・化学部門のカラフルなビーズ体験は24年8月に実施した理科教室及び昨年のサイエンスアゴラをベースに準備を進めた。
- ・昨年度の課題である当日の順路に関しては掲示板を含めて明確化することで対応することで合意した。
- ・レイアウトは順路だけでなく勉強（対話）→体験の順番を遵守することを意識した。

4. 当日の様子（写真含む）



図1 当日の全体レイアウト（土曜日午前時点）

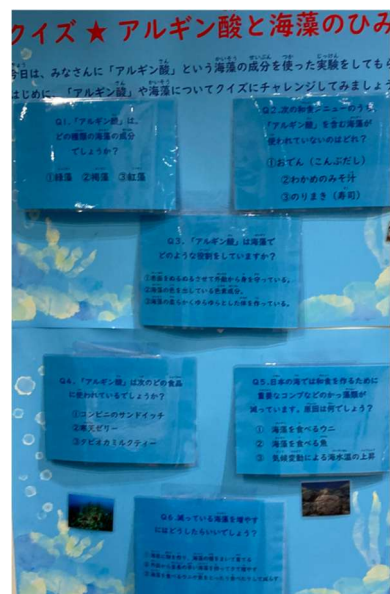


図2 水産部門のポスター



図3 当日の様子（土曜日）



図4 カラフルなビーズ（K氏作、某万博キャラ？）



図5 気づきボード（日曜日）



図6 カラフルなビーズをつくる様子（日曜日）



図7 土曜日のメンバー（化学部門、水産部門）



図8 日曜日のメンバー（化学部門、水産部門）

- ・今年も昨年同様に家族連れを中心に当ブースに訪れた。今回は事前にスライムなどのサンプルを作成して見せることで興味をもって参加してもらうことができた。
- ・昨年までの課題である順番は掲示や順番バッチなどの対策を行うことで大きな混乱なく対応できた。
- ・今回はクイズなどを通じた勉強、対話→ビーズの体験とすることで学んだことを実際に触れるという流れができた。これはサイエンスアゴラのテーマである対話という点で大きな効果を得ることができた。今後の活動においても重要なことだと感じた。さらに昨年なかった気づきボードを活用することでインプット→アウトプットの流れができたので来場者にとっても考える機会になったのではないかと考える。
- ・今回は前回にはなかった実際の食べ物（サンドイッチなど）を見せることでアルギン酸をより身近に感じてもらうことができた。
- ・概算ではあるが2日で約200人以上の来訪者が当ブースに訪れたとみられる。過去のサイエンスアゴラの中で最も来訪者が多かったとみられ、当ブースも含めて多くの人が興味を持ってもらったと感じた。
- ・技術士そのものにも興味を持った家族もいた。理科離れと言われる中で当ブースだけでなく、科学に興味をもってもらいその中で技術士というものを知ってもらう機会としては新たな場面の一つであると考え。

5. 参加者からの感想、来年への課題等

- ・昨年の反省点を活かしたこともあり、大きな課題としてはなかったと考える。成功したイベントだった。
- ・今年の採択書類は「対話」を重視しているものであった。来年度の企画を考える上では「科学、化学の魅力」「難しいことをわかりやすく」「子供も大人も考える、感じる」を踏まえて対話できる企画であることが必要だと感じる。他のブースは様々な工夫を凝らした企画であったことや、サイエンスアゴラの採択数が 25 年は減少したことを考えると来年度はどのような企画を提案するべきか課題である。

6. 参考) これまでの若手の会によるサイエンスアゴラへの参加

	参画プログラム名	サイエンスアゴラテーマ	参考)現地来場者数
20 年	技術士と学ぼう～身近なもので楽しい実験	Life	オンライン開催
22 年	電気自動車 つくって学ぶ「カーボンニュートラル」	まぜて、こえて、つくりだそう	1,870 人
23 年	今こそ考えよう！みんなで出来る SDGs アクション	5 つの “気になる”	3,525 人
24 年	海の恵みから SDGs を考えよう！化学と水産はつながっている	サイエンスと共に未来へ	4,635 人

以上